

西谷・佐曽利地区におけるダリア栽培の歴史について

産業文化部 農政課

1 佐曽利地区でのダリア栽培の歴史

昭和 5 年（1930 年）に佐曽利地区において、有馬郡有馬村（現神戸市北区有野町）からダリアの球根 300 球を導入、数名によりダリアの生産が始まった。生産開始から 5 年後の昭和 10 年（1935 年）3 月には、生産者の機運が高まり、佐曽利園芸組合を設立し、共同出荷と販売先の調整が開始された。

昭和 19 年、戦時中の食糧増産拡充のため不急作物は生産が制限されるなか、ダリア球根はイヌリンという多糖類の一種を含んでいることから軍需薬品原料としてダリア球根栽培 5 町（約 5 ヘクタール）の栽培の指令が下り、戦時中もダリア生産を続けることができた。

戦後、昭和 25 年（1950 年）にはダリアは切り花栽培から球根生産へと主力が移り、同年の球根の輸出は 3 万球にのぼった。最盛期の昭和 45 年（1970 年）頃には年間約 300 万球が生産され、その大半がアメリカやカナダに輸出されたが、為替の変動もあってほとんど輸出がなくなった。

※ 宝塚市『宝塚市大辞典』（平成 17 年）並びに佐曽利園芸組合『花の里 50 周年史』（昭和 55 年）より

2 ダリア栽培の現在

現在、19 軒の農家が佐曽利園芸組合に加入しており、作付面積は約 5ha、球根生産は全国の 40% を占める年間約 60 万球を生産、また切り花の出荷も行われている。

また、繁忙期における人手不足への対応策として、また農福連携の観点から、社会福祉協議会と連携し福祉施設入所者等を受け入れている。

<参考：ダリアについて>

ダリアは多種多様な花の色や形を持ったキク科の多年草。（和名：天竺牡丹）花の咲く期間は長く、初夏から晩秋まで咲く。原産地はメキシコなどの高原地帯で、ヨーロッパに輸入された後、日本には江戸時代にインド経由で渡来した。ダリアという名前は、スウェーデンの植物学者アンドレアス・ダール氏にちなんで名付けられ、和名の「天竺牡丹」は、ダリアが牡丹の花に似ていることが由来とされている。